

＊  
ときの話題

### 2025年と2040年問題 少子高齢化の日本を考える



社会福祉法人  
ゆうえい会  
理事長  
池田 繁

高齢化社会をめぐって2025年問題・2040年問題が取りざたされています。25年には団塊の世代すべてが75歳以上の後期高齢者となり医療・介護の需要が爆発的に高まり、40年には団塊ジュニア世代が高齢者となり、労働力が不足し社会インフラが機能しない問題を引き起こしかねないといわれています。少子高齢化問題とその対策は重大課題です。

#### 「百年安心」「悠々自適」は死語？

年末12月の年金支給日、テレビのニュースは一齐に年金受給者へのインタビューを報じました。物価高の波にもまれ「年金だけでは生活できない」と悲鳴にちかい高齢者の切実な声をとりあげました。「暮らす為に働きたい」との声も沢山ありました。総務省の調べでは65歳から69歳は2人に1人、70歳から74歳は3人に1人、75歳以上でも10人に1人が働いています。高齢者にも貧困が広がっていることを示すものです。

「介護保険」が発足して四半世紀になろうとしています。負担が増えていきます。新潟市の第8期介護保険料の基準額は6,641円となっています。

また2008年開始の「後期高齢者医療保険」制度は保険料が上がり、今年は全国平均で月額7,000円を超えます。何もかもが自己責任、自助となります。何らかの年金問題で政府・与党が声高に叫んだ「百年安心」はどこに行ったのでしょうか？退職後、医療や介護の心配なく年金で「悠々自適の生活を送る」は死語になったのでは、とさえ思うような状況です。こんなことは絶対におかしいのです。

#### 地域包括ケアが必要

：いまこそ公助を

さて認知症高齢者急増の現実が迫ってきています。2025年には認知症の人が700万人、高齢者の5人に1人を占めると推計され、23年6月認知症基本法が成立しました。法は基本理念として認知症の人の意見表明や社会参加の機会の確保、良質で適切な保健医療・福祉サービスの提供、家族支援の推進をうたっています。

超高齢化と認知症の増加するもとでは、地域包括ケアシステムを構築し機能させる必要があります。地域包括システムは高齢者の尊厳の保持と自立生活を支援することを目的にして、住み慣れた地域で自分らしく暮らし、人生を全うできるように地域の包括的な支

援・サービス提供体制とされています。包括ケアシステムは5つの要素(住まい・医療・介護・予防・生活支援)の連携が必要であり、本来それは国・自治体の主導的責任(公助)によってつくられるものでした。ところが国は、地域包括ケアシステムの前提に「地域共生社会(我がこと・まるごと)づくり」を唱え、行政の主体的役割を放棄して医療や介護をはじめ福祉・教育も自助と互助を基本にして、地域完結ですすめることを求めています。システムを構築し機能させるためには行政に公的責任を果たさせることが必要です。絶え間なく働きかけていくことが重要と考えます。

#### ゆうえい会(ゆうばえ)の施設と働く職員

ゆうえい会(ゆうばえ)の施設は、利用者の社会活動参加を介護の柱に位置付け、事業をすすめています。安全に配慮し、認知症があっても「役割をもって出来ることは行い、人としてきちんと評価される」という日常の積み重ねが「利用者の人権が尊重される」介護をつくっていくと思えます。こうした事業活動をすすめている職員集団を私は誇りに思います。それが、高齢者の人権が尊重される世の中をつくることにもつながっていくと考えられます。こうした取り組みは「弱い立場」に立たされている人々の人権を尊重する社会を作っていくことにつながる、と確信しています。

夕映えの会総会(5月19日西コミセン)



事務局長  
神立 秀明

今年度の活動  
ポイントは「こころ」!

総会に先立ち夕映えの会設立30周年記念事業として、『新潟市域で予測される地震災害』と題して新潟大学災害・復興科学研究所所長 卜部厚志教授をお招きし、講演会を開催致します。

地域で育った私たち夕映えの会が、地域にお返しする「命と暮らしを守る講演会」です。予測される地震とはどういうものか、どうすれば私たちの命と暮らしは守れるのか、と一緒に考えましょう。

総会議案のポイント

① 楽しく学ぶ地域学講座・夕映えさて今年度の活動方針は大きく4つあります。

えゼミナール、昨年は好評のうちを終了しました。私たちが住んでいる地域の歴史や文化など楽しく学ぶ夕映えゼミナールは今年度も継続します。ご期待ください。

② 認知症になっても住み慣れた地域で生活できる、支え合いのある地域をめざしたまちづくりの推進です。認知症は5人に1人の時代になってきています。認知症への理解を深め、広げる活動を行います。あらためて認知症について学ぶ大規模な講演会を計画します。同時に、自治会のご協力をいただき、小さな単位でのミニ学習会や認知症サポーター養成講座を系統的に開催いたします。

③ 全国では600万人とも言われる買物弱者、私たちの周囲にもお困りの方が大勢いらっしゃいます。知恵を集め、解消のための足掛かりの一步を踏み出したいと思えます。

④ 会の基盤である会員増やしと合わせて、各種ボランティアの増員に努めます。よろしくお願います。

今年度も夕映えの会へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。



全6回、皆勤賞!

夕映えゼミナール、楽しかったですね



遠藤 剛  
五十嵐西

夕映えの会が企画してくれた夕映えゼミナールは、昨年の8月から本年3月まで、6回にわたって開催されました。私はこのゼミナールに全回参加、皆勤賞でした(笑)。他にも何名かの皆勤賞の方がいらっしゃいますが、私から感想を述べさせていただきます。

最初の加藤功さんの講演は、越後平野の成り立ちでした。新潟砂丘に阻まれて越後の悪水を海に流すことができなく、越後平野はどこも水とのたたかい。人々が苦労して川を掘って海に出したというお話でした。天然の河川で海に出ていたのは、信濃川と荒川のみと教えていただきました。これにはびっくりしました。

10月のフィールドワークでは潟東歴史民俗資料館や「水土里ネット西蒲」の西蒲原土地改良事業展示室、西川町の高橋源助の墓を訪れました。少々義務的出席の私でしたが、がぜん興味が湧いてきました。マイクロバスは私の運転でしたので、コースを事前に下見を

し、事故を起こさないよう大変神経を使いました。

3回目からは、若い太田和宏さんが講師。赤塚と佐潟、乳の潟・早潟・六地潟・長潟など、私たちの地域にあった潟のお話を聞くことができました。太田さんは今年40歳の若さにもかかわらず、どんな質問にも的確に答えられ感心しました。

今年度もまたこのゼミナールが続くというお話を聞いて、私はすっかり嬉しくなりました。北国街道をまち歩きガイドさんのお話を聞きながら歩くもよし、ちよつとリッチに日帰り温泉付きのフィールドワークもよし。おにぎりをもって野外で昼食の「大人の遠足」も楽しそうです。どんな企画が出るのやら、ワクワクしています。



「横田切れ」を説明する加藤功さん  
西蒲土地改良事業展示室



### 「体にやさしい野菜スープ」

みずき野 小林ケイ子

#### 材料

- ① 根菜類…ごぼう、人参、大根、ジャガイモ（里芋、さつまいも）  
切る大きさは適当に、おでんより小さめに
- ② 葉っ葉類…（家にある、冷蔵庫にある野菜）  
…キャベツ、ブロッコリーの芯、小松菜など

①をよく煮て②を入れて煮る

- ・味付けはコンソメがいいかな？お好みで味噌と鶏がらスープの素、醤油と鶏がらスープの素などいろいろやってみて下さい。薄味がおススメ。
- ・野菜だけでは物足りない方はベーコン少々、あるいは鶏肉少々を入れて下さい。

※離れて暮らすお嫁さんが「野菜スープ」の効能とレシピ本を送ってくれて、それからこのスープにはまっています。



一緒に暮らす孫たち（小学生）も、野菜だけのスープを「美味しい」と食べてくれます。とにかく体に優しい野菜スープです。皆さんもアレンジしてお試しください。

## 地域の声・話題コーナー

### お元気会の予定

#### 5月

と き 5月23日（木）9：30～11：30  
 ところ 西コミセン  
 内 容 体操&発酵食品などの学習

#### 6月

と き 6月27日（木）9：30～11：30  
 ところ 西コミセン  
 内 容 体操&聴いたり歌ったり

### ♪ お元気会DEウォーク&お花見 ♪

待ちに待った春らしい穏やかな季節が到来、絶好の花見日和となった4月11日、メンバーは西コミセンに集合し、ウォーキングがてら西ヶ丘団地の広通川土手に到着。団地の皆さんが2020年に植栽されたピンク、白、紫など色とりどりの芝桜が迎えてくれました。

八分咲き桜の下でシートを広げて、さっそくお花見。孫や学校ボランティア、物価高騰など話題はたくさん、おしゃべりもまさに満開。一服のお煎茶が心を温め、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。「来年も来ようね」と約束し合いました。（佐々木紀美）



事務局  
神立秀明

※先着70名  
 （申し訳あり  
 ません）  
 4年ぶりの西  
 内野食堂です。  
 みなで一緒に食  
 事を楽しませ  
 しょう。

参加費 大人（中学生以上）300円  
 小学生100円 幼児無料  
 場 所 西コミュニティセンター  
 和室  
 日 時 5月18日（土）  
 11時30分から13時



団体さん  
 いろいろしゃべり

西内野食堂  
 会食形式で  
 再スタート

子どもから高齢者どなたでも参加できる西内野食堂。新型コロナウイルス感染症流行のためにやむなく中断をしました。現在は感染も落ち着きを見せかけていますので、この5月18日（土）より、コロナ流行前と同様に、会食形式で再スタートをします。ただし、子どもたちの居場所しばらく見合わせたいと思います。

今後の予定は、奇数月第3土曜日が開催日です（自治会、町内会回覧をご覧ください）。なお、調理、設営のボランティア募集中です。高校生大歓迎です。



# おめでとう開設5周年!



グループホームゆうばえは  
第二のわが家 開設5周年を迎えて

グループホームゆうばえ  
井之川智穂

グループホームゆうばえが開設してから、5月1日で6年目を迎えます。

開設した当初は、どうしたら入居者様にとって第二のわが家になれるか、日々話し合いを行ってきました。それは今でも変わることない、永遠のテーマかと思えます。日帰りの温泉旅行や弥彦までトキを見に行き外食をしたり、入居者様の希望を聞き、生活に取り入れていました。

そんな日常がコロナ禍になり、閉じこもる生活になりました。コロナ感染症は5類に移行しましたが、感染リスクや影響力は強く、自粛する日々が続いています。施設内での生活が充実するように試行錯誤もしてきましたが、入居者様の日常を豊かにするために、今後は感染対策を十分に行いながら、屋外での活動を増やして行きたいと思っております。

また地域の方々との関りも深めていけるように私たちの出来ることから取り組んでいきたいと思えます。何か私たちがお役に立てることがありましたら、いつでもお声掛け下さい。お待ちしております。



入居者様皆さんで食事作り

## 手を取り合って

「一緒に歩んでいきましょう」

密着デイサービス・えんでこ

大津 正子

「二人ひとりが持っている力を発揮し達成感や満足感を得られる。ご自身の役割を果たす事の喜びを感じられる。また、地域とのつながりも大事に社会の一員として活躍する」。それが、新しい地域密着デイサービス・えんでこのスタンスです。そうはいっても私たちえんでこのスタッフも、えんでこを紹介して下さるケアマネージャーさんも、「試行錯誤、これでいいのだろうか」の連続でした。そこから始まり、6月で6年目を迎えます。

さてえんでこの一日の始まり

は、朝の会での作業決め。一日の大まかな作業が決まっていきました。

中でもペットの魚せんべい作りは人気の一つです。「畑仕事」「薪づくり」など、えんでこならではのお仕事も。また、季節の惣菜作りやパン作りも人気です。家に帰って、食べるのを楽しみにしながら作っています。

週一日、内野まちづくりセンターで手作り作品やえんでこの畑で収穫した野菜の販売もしています。また昨年は、西区自治協議会提案事業の「環境美化パートナー」に登録。地域のゴミ拾い活動にも参加させてもらいました。5歳になるえんでこ、今、皆で特別イベントの準備に取り掛かろうとしているところ。もうちょっとだけヒミツです。



農家さんのご依頼でゴミ拾い

## 編集後記

元日の大地震から4ヶ月、地震による補修工事を公費で終わることができたという方も出てきました。「大地は動く、どうする私たちの暮らし・生業！」という重大問題が突きつけられました。そんな時、夕映えの会が新潟大学災害・復興科学研究所の卜部厚志先生をお呼びして講演会が開催されることになりました。今後、北陸・東北で地震が起きる際、最も甚大な被害をもたらすと予測されているのが「長岡平野西縁断層」。この断層は、四ツ郷屋・内野上新町の沖合から佐潟東側を通過して小千谷市にかけて、南北方向に約83kmの長さを持つ断層帯です。私たちはその断層の直上に暮らしていることになりました。どんな規模の地震が予測されているのか。命と暮らしを守るにはどうすべきか、是非多くの皆様、参加下さい。(M記)

## Information

### ゆうばえ新聞 通信員大募集

**【配食事業部】** 070-4453-5228 (小島)  
お弁当のお問い合わせほかお気軽にお声がけください。

**【生活支援】** 070-4314-3980 (神立)  
お困りのことがあったら何なりとお電話ください。